

## 越後駒ヶ岳山行記録



道行山付近より中ノ岳と駒ヶ岳

目的地	越後駒ヶ岳（銀山平～道行山経由）	期 日	平成20年3月30日（日）：晴のち曇
山行人	CL.広井N・土田M・渋川A・伴場C・清水R・五十嵐H・加藤I・笠原正雄（ピンクは女性）		

地 点 名	時 刻	記 事
見附待ち合わせ	4:30	白根からのIと合流し1台で小出まで高速。1時間足らずで大湯口ゲートに着く。
シルバーラインゲート通過	6:00	埼玉からCとRが来る。次いで栃尾からH、最後に川口からNとMの7人が揃う。急遽吉田からのAも加わることとなり、4人が初対面である。全員で朝礼。
石抱橋	6:40 発	ラインを進むと路上に薄雪が現れる。白光橋に出れば白銀別世界だ。曇の予報だったが快晴である。目指すピークが美しい。昨日からの新雪が10cm位ある。山スキー2人が先行する。除雪最終点から雪に上がりカンジキを履く。最後尾を歩く。
日焼止めを塗る	7:25	北ノ又川左岸を高巻く道を進んだ後、広河原状地に下りた所で立ち止まって塗る。
休 む	7:35～7:40	柳沢の北ノ又川との出会い付近の台地に上がり休む。Mよりオレンジをご馳走になる。一昨年より時期が早く雪が沢を埋めていて、骨投沢と思ひ込んだ。
柳 沢 へ	7:40	歩き出してすぐに右折する沢中にトレースがあった。進めば、九十九折れに尾根に取り付く急登となる。Hはスキーシールで直登だ。（帰宅後地図で確認したが、沢右岸の2本目の尾根であった。一昨年は1本目の尾根）
尾根に上がる	8:05	Mがスキーの下りトレースに誘惑され、一緒にそちらに進んだが、九十九折れメンバーに遅れをとる。前後を代わる。やはりトレースを外すと半ばラッセルとなり辛くなる。尾根に上がれば沢の対岸に明神尾根が見える。振り向けば日向倉山・未丈ヶ岳が続く。全員立ち休み後に歩き出す。5分後暑くなりシャツ1枚を脱ぐ。
展望が開ける	8:20	1本目尾根ルートと合せて進み好展望の平らに出る。「お焼き」を頂き、笹団子を食べる。Cが本領発揮でハーブ茶を振舞ってくれた。向かうピークを始め絶景が広がる（上の画像）。大きくは無いが樹氷も我々を迎えてくれた。
道 行 山	9:20～9:35	林間登りから喬灌木が悉く雪の下となり、雪原を登りピークに上がる。スキートレースがピークをトラバースしていた。ここに来て、ごく僅か灌木の頭が出ていた。山スキー2人が先の尾根を進んでいる。休憩後、シールは外して滑降するHが「快感」と満足顔だ。この下りを先頭に立ち、少し距離を稼ぐように進む。
小 倉 山 下	10:05	小倉山手前にさしかかるとスキーで先行のHが雪の割れ目に気をつけるよう注意を促してくれた。それにも拘わらず、新雪に隠れた割れ目に腿まではまってしまった。トラバース直前で休む。トラバースルートはスキートレースだけだったのでNが一足先に歩き出して足場を刻んでくれた。軟雪で斜面歩きも不安感は少なかった。小雪庇を乗越えて小倉尾根ルートとあわせるが、そちらのトレースは無かった。まだ歩かれていないのか、或いは新雪の下なのかは分からない。
稜線斜面		稜線ピークから外れた右斜面にスキートレースが付いている。斜面歩きよりピーク上がって進んだほうが良さそうだが、それでもトレースを拾う方が楽だ。
百 草 池	10:50～11:00	長い登りに入る手前で休む。裏三山縦走路を見渡す。
ツボ足歩行へ	11:10	最後尾を歩いている。足元の雪が固まってきたように思えて、俺1人だけカンジキをぬぐ。これは失敗だった。やはり時々ぬかって登高速度を上げられない。履きなおせば良いものを面倒くさくて、そのまま進み、皆からやや遅れ出す。
前駒に上がる	11:55	直登をせず、先行トレースに従い、九十九折れに登り、ここで一息入れる。Aはここまでで満足と言い、1人ランチを決め込む。7人で山頂を目指す。
急 登 手 前	12:10	小屋下最急登の手前で寒くなり、シャツを着る。ここも九十九折れに登る。
駒ノ小屋前	12:30	ザックデポでカップのみをポケットに入れすぐに山頂へ向かう。やはりオツルミズ沢は雪で埋まっていて直登出来る。スキーヤーが滑降している。

駒ヶ岳山頂	12:45~12:55	ここでもしんがりで到着。CL.N が担ぎ上げた赤ワインを注いで貰って乾杯。単独山スキーヤーから数台のカメラのシャッターを押して貰う。標柱の上部が雪から出ている。猿田彦神像は頭だけを現していた。オカメノゾキ縦走路がはっきりと見え、その上げ下ろしの厳しさを改めて感じた。
駒ノ小屋前	午後 1:10~1:45	小屋の周囲に若者スキー・ボーダーが十人程居た。ピッケルで足置場を少し掘り下げて座る。発泡酒 350 を 2 本飲むが、皆さんから続々とご馳走が出る。H が火を使って鍋を振舞ってくれた。何だか自分のものを食べた記憶が無い。やや風が出て来て、じっとしていると寒くなり、指先も冷たくなる。そのため、当初 2 時までの予定だったが、早く切り上げて下山する。軟雪で急降下も不安感はない。右手の雪で埋まった滝ハナ沢源流部を前記若者スキーヤー等が下りていた。
前 駒	2:00	ここに降りれば、寒さが和らぐ。ここでランチのほうが良かったようだ。待っていた A と 8 人で下山へ。皆はカンジキを履き通しだったが、俺一人ここから少し下った所で履く。少しずつ日差しが陰って来た。
小 倉 山 トラバース手前	2:50~3:00	今度は、稜線ピークを思い思いに下る。カンジキ履きでやや遅れて到着。若者達も居た。H が残った缶ビールを開けた。燂って残った水割り缶を開けて、チョットほろ酔い気分。C がコーヒーを入れてくれた。とても美味かった。
道 行 山	3:40~3:55	満足感で振り返しも辛くは無い。毛猛山塊の先に今まで雲で見えなかった守門岳が現れた。もう一度大休憩。若者等とまた一緒になり、彼らは柳沢の急斜面を滑り下りて行く。
林 間 下 り へ	4:15	雪原尾根から林に入る頃、ごく僅かチラチラと雪が舞った。上山ルート通りにおしゃべりをしながら下る。尾根下降点でシリセードをするが、殆んど滑らない。
林 道 歩 き	4:40	北ノ又川沿い林道に降りる。5:15 高巻き道に差し掛かると、朝には無かった左斜面からの雪崩跡が数箇所あった。
石 抱 橋	5:35	スキーで先行下山の H がサンダル姿で出迎えてくれた。シルバーラインゲート閉鎖時刻が迫っているので、素早くトンネルに向かう。
大湯口ゲート脇	5:55	皆で車から降りて集まり挨拶をする。C のお土産のネギを分けあう。
帰 宅	8:15 着	I と見附へ帰る。小出 IC 付近で小雨となった。見附 IC そばの駐車場まで来て、別れる。

前週、高知山二王子山の際 I から、N から日向倉山の誘いがあると聞いた。その山は以前から気に掛けていて、向かう機会が無かった。是非一緒にと頼んだ。ところが山が変わった。残雪期の駒ヶ岳は 3 度登っているが、いずれも 5 月に入ってからだ。駒ノ湯と交互に登っていて今年は銀山平からの年である。また、例年より少し早い時期に入ろうかとも思っていたところだった。しかし、まさか 3 月末にとは考えが及ばなかった。

日白山と一緒に歩いた H が忘れ物のアイゼンを受け取りに来宅した。その際この話をした。また、越後山通い続きで今冬共に行動している埼玉の C に連絡したところ、R と一緒に来ると言う。このような山繋がりで今回の楽しい山行となった。しかし C の山狂いは相当なものであり、脱帽である。

例年より一ヶ月以上も早い時期の入山であったため、出発前は多少不安だったが、CL.N を始めベテラン揃いで、歩き出せばそれはすぐに無くなった。前日の降雪が黄砂を覆って、全く白い世界が広がり、快晴で展望も利いて素晴らしい山行であった。皆に感謝である。